

**平成28年度**

**「小学校英語教科化に向けた専門性  
向上のための講習の開発・実施事業」**

**成果報告書**

**平成29年3月**

**京都教育大学**



本事業は、小学校英語教科化に向けて、京都府・京都市の現職小学校教員が専門性を高め、中学校への英語指導との接続を理解するとともに、専科としての英語指導が可能になるよう、知識・技能の向上を図るものであり、具体的な目標は以下のように設定した。

- (1)80%以上の受講者が、3年間で全科目を受講し、中学校教諭2種免許状（外国語（英語））を取得すること。
- (2)中学校英語との接続を意識しながら、コミュニケーションを中心にした英語学習の意義を理解させる指導ができること。
- (3)単に中学校教諭2種免許状（外国語（英語））を取得して中学校での教科指導を知るだけでなく、小学校5・6年次の「英語」においてそれを柔軟に応用し、小学生の発達段階に応じた英語指導につなげられること。
- (4)小学校3・4年次の「外国語活動」に関しても、有益な指導法を身につけて、実際に指導できるようになること。
- (5)講座を通して、英語運用能力を身につけ、自信を持って教室英語が使えるようになること。

それらの目標にも鑑み、本事業1年目の内容と成果等について振り返りたい。

## 1. 中等英語科教育法（実施日：10月30日，11月27日，12月4日，12月18日）

### （1）講座内容

授業の概要としては、シラバスにあるように、中学校英語における理念や目的について考え、小中連携についても考察した。また、実際に中学校英語の教科書を用いて語彙や音声、文法、4技能・技能統合型の指導のあり方を考えた。また、カリキュラム／シラバスや教材開発を行い、様々な評価法についても考察した。最終的に実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行い、互いに省察を行うことで、理論と実践の往還を図るよう努めた。講義においては、小学校英語の指導にも役立つような指導法、教材開発、評価などを考慮するとともに、受講者ができるだけ英語を用いて授業できるように、演習や模擬授業を通して実際の授業場面を設定し、教師英語などを活用できるように工夫した。

到達目標としては、①中学校英語の理念と目的を理解できる。②4技能（聞く・読む・話す・書く）および技能統合型の指導と評価について理解できる。③カリキュラム／シラバスを構想し、教材開発ができる。④学習指導案（細案）を作成できる、であった。テキストを用いて予習・復習がしやすくした。また、最終的にはグループで指導案を作成し、模擬授業を行った。具体的な例を挙げる。

#### コミュニケーション能力育成の実践例（DVD視聴）

- ペア学習，マインドマッピングの活用法，ライティングの協同学習，スピーキングの協同学習
- ・実際の教科書教材のワークシート例
  - 教材研究の仕方，インテイクを促進する活動例，音読活動
- ・模擬授業
  - いかに関言語活動にリアリティーを持たせるか。

## (2) 成果

受講者アンケートからも分かるように、概ね良好な結果を得た。具体には、優れた実践から学ぶことで、中学校英語の具体的指導例を習得できたようである（ペア学習、マインドマッピングの活用法、ライティングの協同学習、スピーキングの協同学習）。また、中学生の英語の誤りはどうして起こるのかについて深い考察ができた。さらに、実際の教科書教材のワークシート例からは、教材研究の仕方について学び、それに基づいたワークシートの作成方法を学んだ。インプットからインテイクへ繋げるための活動は極めて重要であり、実際に体験することで小学校英語と中学校英語の違いについて理解が深まった等の意見が聞かれた。最後の「模擬授業」については、教科書本文を大切に、いかに言語活動にリアリティーを持たせるかということについて学びが深まったようである。

評価は全体的な出席態度、指導案と模擬授業、最終テストで行った。テストについては、授業で行った内容から論文形式の問題を出題した。受講者65名中最最終的に57名が単位を修得した。

## (3) 改善点など

模擬授業をグループで行ったが、学校が異なり、学期末の多忙な時期とも重なり、指導案作成にご苦労をされたようである。講座の中でもう少し早めに告知したり、最初の講義でグループ分けを行い、毎回少しずつ時間を取るなどの対応が次回以降必要である。また、テキストを使いこなす時間がやや少なくなった。集中講義の難しさであるが、今後検討が必要である。

## (4) 担当者のコメント

小学校教員である受講生は概して熱心に授業に参加された。自ら学びたいと集まられており、動機づけも高く、質問をされたり、残って模擬授業の相談をされるなど、積極的に参加されていた。ただ、英語力に差があり、英語での模擬授業の際に文法の誤りが見られたり、小学校と中学校の差があまりない内容になったりしていたのが残念である。講座の内容は網羅的に様々なトピックを扱っており、今後小学校英語を教える際にも参考にさせていただけるのではないかと考える。なお、もっと小学校で扱う内容にしてもらいたかったという意見もあったが、中学校英語の免許法認定講習でもあり、小中連携や小学校英語の教科化も見据え、講座内容を検討し実施したが、受講者のニーズと講座の目的にやや差が見られたのは残念であった。

## 2 英語コミュニケーションⅠ（実施日：10月23日、11月6日）

### (1) 講座内容

講座の目標は添付のシラバスに記載の通り、英語の四技能をバランスよく伸ばし、英語でのコミュニケーション能力を高めることであった。

実際の授業は、単語を確認した後で音声を聞き、スクリプトで英文を確認し、関連する文法事項を説明し、問題を解いてもらう形で進んだ。授業を進めるにあたって、リスニング力の基礎となる単語の確認、そしてスクリプトを読むための文法をしっかりと説明することに留意した。

スピーキングとライティングの力を伸ばすために、授業内でテーマを与えてグループでリサーチをしてもらい、5分程度のプレゼンをしてもらう機会を作った。4人程度のグループでテーマを決めてディスカッションをし、協力、分担してスピーチをしてもらうことで、すべての受講者に英語でアウトプットをしてもらう機会を作った。

評価は全体的な出席態度、プレゼン、最終テストで行った。テストについては、テキストの扱った章から範囲を絞って出題した。最終的に60名の受講者のうち、55名が単位を修得した。

## (2) 成果

添付のアンケート結果からわかるように、おおむね受講生からは好意的な評価を得た。受講生の評価が良かったのは、テキストの選択と文法事項の説明を丁寧に行ったことが要因であると考えられる。

テキストは BBC のドキュメンタリーシリーズの入門編で、それぞれのビデオクリップは3分程度のものであり、難易度はそれほど高くないが、自然、文化、歴史、科学などを扱った内容で、興味を持ってもらいやすかったと考えられる。テキストが面白かったという回答がアンケートにも多くみられた。授業では内容が偏らないよう、文化や歴史、自然や科学を扱った章をそれぞれ、できるだけまんべんなく扱った。また、テキスト付属の DVD にはアメリカ英語とイギリス英語の両方のナレーションが入っており、それぞれ聞き比べ、その違いなども認識してもらうことができた。内容に関して、イギリスやアメリカの新聞記事や文化的背景などを紹介したことも、興味を深めてもらう要因となった。

文法事項については、基礎的なことをしっかり復習したことで、英語の文章を読むことへの苦手意識が少し下がったように思われる。今後は意識的にインターネットや新聞、雑誌などを使って、社会、文化的な内容に触れたいというアンケート回答が多かったことから、英語を学習し、使用することへの意識を高めることができた。

## (3) 改善点など

受講生の人数が多かったため、十分にアウトプットの時間が取れなかった。一人一人に毎回の授業の中で英語を話してもらう時間が十分に取れなかったことは残念である。それを補うためのプレゼンを課題としたが、時間的、物理的な面で、授業外に課題をこなすことがなかなか難しいと感じる受講生が多く、プレゼンの準備などについては検討する必要がある。

## (4) 担当者のコメント

受講生は概して熱心に授業に参加された。

テキストは、難易度はそれほど高くはないが、オーセンティックなドキュメンタリーの一部であり、受講生のさまざまな興味に対応するものであった。また、テキスト付属の DVD にはアメリカ英語とイギリス英語の両方のナレーションが入っており、それぞれ聞き比べ、その違いなども認識してもらうことができた。その上、自習用の DVD があり、それにもスクリプトが出るようになっているので、予習もやりやすかったようであった。講習終了後は、各章の問題の解答を作成し、配布したので、授業で扱わなかった章についても、自分で時間を見つけて取り組んでもらえるように配慮した。

小学校教員向けということでもっと簡単だと思っていたという意見があり、中学校免許を取得するための講座であるという自覚が少ない受講生もいたように思えた。

時間的制約がある中で4技能をバランスよく伸ばすという目標を達成するのは難しいことであるが、少なくとも英語や異文化に対する興味や意識を高めることはできたので、今後の受講生の英語学習に対する動機づけになったのではないかと考える。

## 3 小学校英語スキルアップ講座A（実施日3月4日）

### (1) 講座内容

主に以下の内容について理論と演習を行った。

- ①小学校英語教科化に向けて、今すべきこと。新学習指導要領を読み説く（ねらい、4技能の扱い等）。  
→ 中教審の答申や新学習指導要領（案）を紹介し、そのねらいやグローバル時代に求められる小学校英語について

- ②音声と文字の結び付きとリタラシー（読み書き）の導入・指導法：短時間学習の取組，アルファベットジング，フォニックス，絵本の読み聞かせなど，バランスアプローチを踏まえて。  
→ 短時間学習で扱うリタラシーの導入，絵本の扱い，音韻認識等の紹介と絵本の読み聞かせなどの演習
- ③内容と言語統合型学習や他教科横断的指導。  
→ CLIL の理念と具体例
- ④指導と評価のあり方：Can-Do 評価の考え方とポートフォリオ的活用，パフォーマンス評価について。  
→ 評価とは何か。Can-Do 評価とパフォーマンス評価の具体例

## （2）成果

受講者は若い教員も多かったが，熱心に参加され，講座内容にも満足されていたようである。まずは，小学校英語の変わりゆく実態について理解していただいた。また，読み書きをどのように導入するかは大きな課題であり，アルファベットの扱い，音韻認識や絵本の使い方など，講師の優れた具体例を見ながら実際に体験し，また受講者同士で読み聞かせを行ったり，英語で発問する等，より実践的な内容を通して明日からすぐに使えたり，将来短時間学習を行う際の参考にしていただけるのではないかと考える。

さらに，小学校高学年で必要な知的好奇心や有能感，達成感を育てるための知的な活動や，担任ならではの他教科横断的な内容等，教材開発や工夫を豊富な例を示しながら体験していただいたので，イメージがつかめ発想が広がったようである。最後に不安が大きかった評価の問題を取り上げ，指導と評価の重要性，授業改善や児童の自己肯定感につながる評価の在り方について理解していただいたようである。また，具体的に児童のパフォーマンス評価の様子を見ていただいたり，自身で評価してもらうなど視聴や体験を通して，イメージができたのではないかと思われる。

## （3）改善点など

プリントを配付したが，実際にはパソコンを用いて講義を行ったために，配付資料に全ての内容が載っていないといったコメントも見られた。しかし，著作権の問題やかなりの量になるなど，実際には難しいと思われる。また，開催時期についてのご要望も多かった。十分検討して決定したが，次年度はさらに回数を増やしたり，京都府の北部開催も検討する等，より多くの先生方が参加できる環境や体制を考えたい。

## 4 小学校英語スキルアップ講座 B（実施日 3 月 5 日）

### （1）講座内容

主に以下の内容について理論と演習を行った。

- ①児童英語教育の関連領域（第二言語習得など）の理論。  
→ インプット・インテイク・中間言語発達・アップテイク・アウトプット
- ②児童の発達段階に応じた指導法の例示と練習。  
→ *Hi, friends!* の例文の検討とそのレベルアップ化
- ③音声指導の方法：フォニックス，教師英語を含めた英語力ブラッシュアップ。  
→ 教室英語の演習。フォニックスの説明
- ④ALTとのチームティーチングを想定した模擬授業や授業省察などによる実践的指導力の養成。  
→ four strands の説明と，それに基づく *Hi, friends!* の活動分析
- ⑤小中の外国語指導のスムーズな連携と接続のための提案。  
→ 小学校高学年から始まる概念的思考の説明，発達段階を踏まえての概念と発話の拡がりを目指した実践の提案

## (2) 成果

児童英語教育の関連領域(第二言語習得など)の理論については、インプット・インテイク・中間言語発達・アップテイク・アウトプットという流れについて最新の第二言語習得理論を学んだ。特に、アップテイクの重要性について理解が深まった。

児童の発達段階に応じた指導法の例示と練習を通して、*Hi, friends!* の例文を検討し、その問題点を指摘し、レベルアップをはかるためには具体的にどうすればよいか、考察した。特に、副詞の働きについて理解が深まった。

小中の外国語指導のスムーズな連携と接続のための提案では、小学校高学年から始まる概念的思考の重要性について理解し、発達段階を踏まえての概念と発話の拡がりを目指した言語活動を考案できるようになった。

教室英語の練習や、活動分析等実際に役立つ内容であり、教材研究や授業設計に役立てることができると思われる。また、講座はワークショップ形式で行われ、言語の取得を促進するためのクラスの設計に関わる手順と活動を示した。クラスのもう一つの重要な要素は、インテンシブ・リーディングとエクステンシブ・リーディングの違いを実証し説明することであった。この授業では、クラスルーム英語を適用するための重要な原則も説明され実証された。クラスは実りのある内容で、受講者は熱心に参加していた。

## (3) 改善点など

小学校現場で実際に使用するために直接的な応用ができるように、より具体例や活動の時間をさらに増やす必要がある。

## 5 全体を通して

年度途中での採択であり、採択決定後、本学理事・副学長や京都府・市より派遣されている本学教員、並びに本事業総括が京都府・市の教育委員会や小学校校長会を訪問し、協力をいただきたい旨お願いをした。その結果、京都府教育委員会指導主事より2名、京都市教育委員会指導主事1名、京都府小学校校長会より1名、京都市小学校校長会より1名が、本事業の検討委員会やプログラム開発委員会に関わってくださり、貴重なご意見を頂戴し協議が出来たことが大変有り難かった。また、京都府総合教育センター、京都市総合教育センター等のご協力もいただき、各小学校に講座情報をお伝えいただいたり、チラシを配布していただくなど全面的にご支援いただいたことも大きな成果であったと言える。教育委員会と大学の連携があつてこそ、ご要望もお聞きしながら成し得た事業であると考えている。

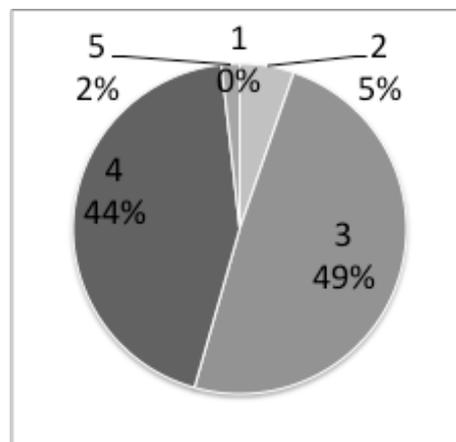
また、短時間の広報期間であつたにもかかわらず、多くの応募者があつたことから、小学校教員の専門的知識や技能の習得や研修等の必要性と、本事業の意義や重要性が確認された。また、アンケート結果からは受講者の満足度は高く、おおむね成功と言えるだろう。と同時に課題もいくつか見えてきた。中学校英語の免許法認定講習では、かなりの英語力が必要とされるが、個人差が非常に大きく、また外国語活動の指導経験年数にも大きな隔たりがあり、講座を進める際に留意すべき点が再認識される結果となった。今後は受講者からの希望にあつたようにレベル別の対応も検討課題ではあるが、講師の数や日程等の関係もあり、難しいかもしれない。また、スキルアップ講座では時期や開催場所の検討が次年度の課題である。さらに、内容が少し多すぎるのではないかといった意見も検討委員会で出されたので、本年度は網羅的に多くのテーマを扱ったが、次年度はテーマを絞って行うことも検討したい。

参考資料1 「中等英語科教育法」受講者アンケート結果

中学校二種（英語）免許法認定講習「中学校英語科教育法」に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	
	回答者数	58

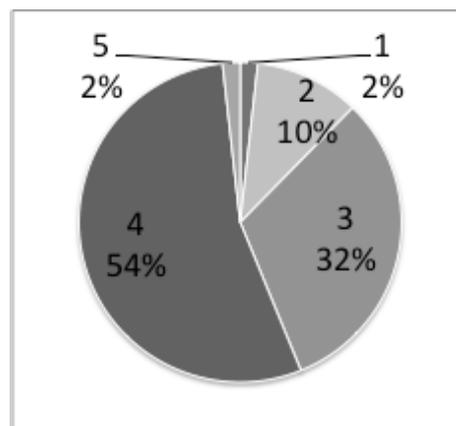
①講習の狙いや到達目標が明確であり， 講習内容はそれらに即したものであった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	5
2. あまりそう思わない	3	3
<b>3. そう思う</b>	<b>28</b>	<b>1</b>
4. 大変そう思う	25	2
5. その他	1	4
計	58	



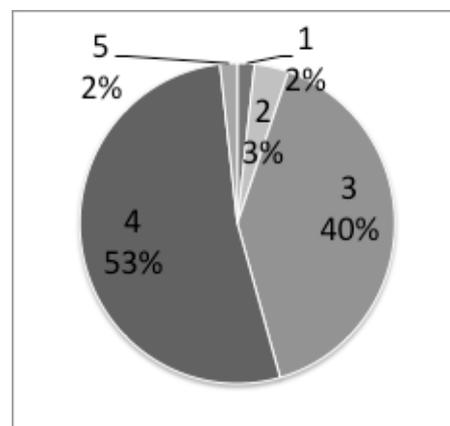
②講習は学習意欲がわく内容であった。

	回答数	順位
1. そう思わない	1	4
2. あまりそう思わない	6	3
<b>3. そう思う</b>	<b>18</b>	<b>2</b>
4. 大変そう思う	31	1
5. その他	1	4
計	58	



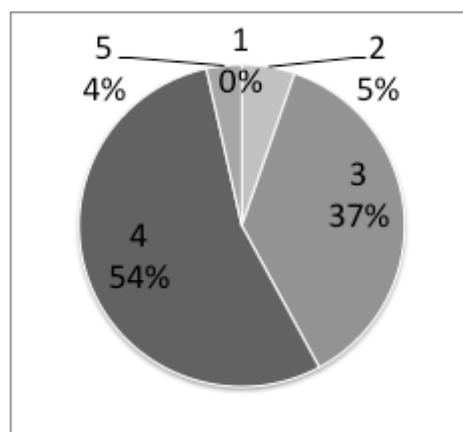
③講師の説明は分かりやすく，よく理解できた。

	回答数	順位
1. そう思わない	1	4
2. あまりそう思わない	2	3
<b>3. そう思う</b>	<b>23</b>	<b>2</b>
4. 大変そう思う	30	1
5. その他	1	4
計	58	



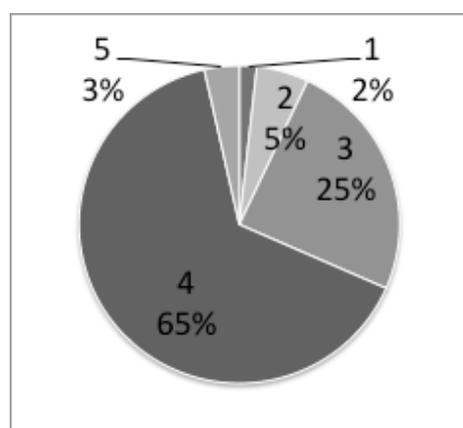
④今後英語を指導する教員に必要なかつ適切な内容であった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	5
2. あまりそう思わない	3	3
<b>3. そう思う</b>	<b>21</b>	<b>2</b>
4. 大変そう思う	31	1
5. その他	2	4
計	58	



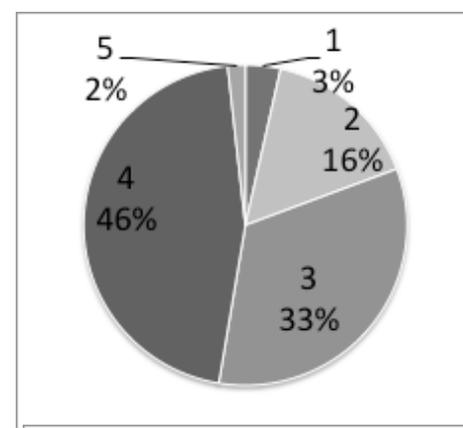
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。

	回答数	順位
1. そう思わない	2	4
2. あまりそう思わない	9	3
<b>3. そう思う</b>	<b>19</b>	<b>2</b>
4. 大変そう思う	26	1
5. その他	1	5
計	58	



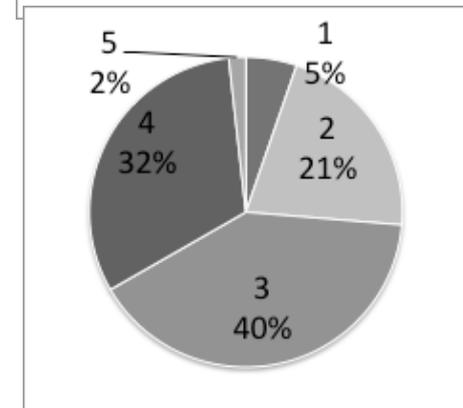
⑥受講前より、英語についての関心・意欲が高まり、教員としての知識・技能の習得につながった。

	回答数	順位
1. そう思わない	1	5
2. あまりそう思わない	3	3
<b>3. そう思う</b>	<b>14</b>	<b>2</b>
4. 大変そう思う	37	1
5. その他	2	4
計	58	



⑦小学校英語を担当する自信がついた。

	回答数	順位
1. そう思わない	3	4
2. あまりそう思わない	12	3
<b>3. そう思う</b>	<b>23</b>	<b>1</b>
4. 大変そう思う	18	2
5. その他	1	5
計	58	



⑧この講習の内容、形態、進め方等について、どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由に以下にお書きください。（一部抜粋）

【授業日程について】

- ・学期末で本職が忙しいので講習を受けたくても受けられない。
  - └夏休みや5、6月にまとめてほしい。
  - └連続年度受けられない可能性があることに疑問である。
  - └指導案作成は学期末という時期において大変忙しいので避けたい。

【授業内容・運営について】

- ・とてもわかりやすかった。
  - └内容が精選されておりポイントを掴みやすかった。
  - └難しい内容だったが丁寧な説明でわかった。
  - └アクティブラーニングの手法を取入れ、聞くだけでなく考える講習で良かった。
  - └中高の授業風景を見られて良かった。
  - └時間が短かったが、その中で最大限やろうと思える内容だった。
  - └タイムリーな話題が聞け、学習方法もためになった。
  - └中学校だけでなく小学校でも活用できる指導の工夫がしれて勉強になった。
- ・もう少し小学校に即した内容のものであってほしい。
  - └小学校英語との差異について講習の中でもっとふれてほしい。
  - └実際の指導事例をもっと見たかった。
- ・模擬授業では他の先生方との連絡調整が困難だった。
  - └様々な学校から来られているので授業時間外で時間を調整することが難しい。
  - └グループのおかげで他府県の先生方と情報交換ができた。
  - └模擬授業はとても有益で良い刺激になった。
  - └別教室の模擬授業も受けてみたかった。
  - └グループの人数が多く、どうしても何もしない人が出てしまう。
- ・中学校英語で大切にしたいことがよくわかった。
  - └講習内で打ち合わせ時間等を確保してほしい。
  - └意欲的な先生方とともに学べて良かった。
  - └英語に限らず、普通の授業でも使える内容だった。
  - └自分たちが受けてきた中学校英語とは様変わりしていることがわかった。
  - └現在の英語教育を踏まえ素晴らしい実践を学べた。
  - └授業場面の再現は参考になった。
- ・英語を使える場があれば英語力の向上になった。
  - └教師自身が積極的に英語を聞く必要があると感じた。
  - └英語学習のモチベーションになった。「学ぶことが楽しい」と思え、もっと学びたいと思った。
  - └英語力の低さに気づき、自身をなくした。
  - └生徒が inspire されるような実践をしたいと思った。
  - └自信がついたとは言えない。
  - └高校レベルの文法についてしっかり理解することが必要だとわかった。

【その他】

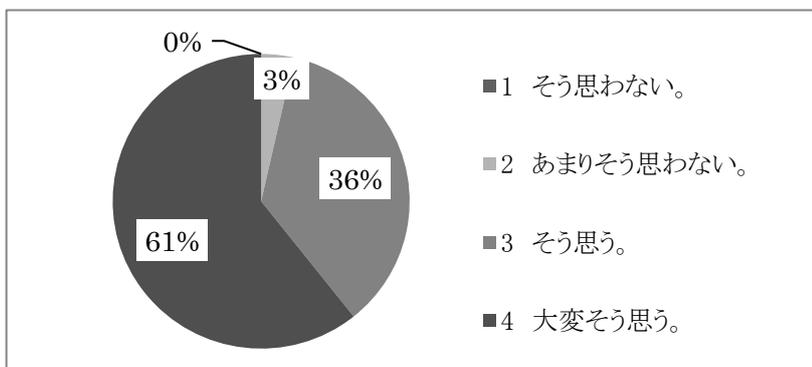
- ・先生方が魅力的で大好きになりました。
- ・日本語で思考した単語をそのまま英単語に変換しても話せず、困っている。

参考資料2 「英語コミュニケーションⅠ」受講者アンケート結果

中学校二種（英語）免許法認定講習「英語コミュニケーションⅠ」に関する受講者アンケート 集計結果	受講者数	
	回答者数	56

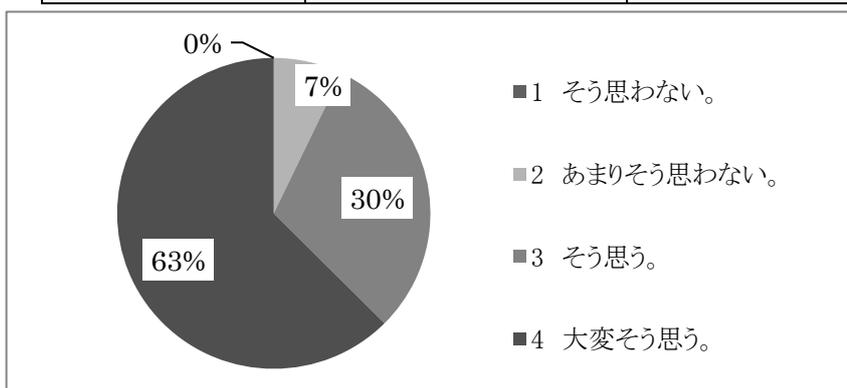
1 講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。

1 そう思わない。	2 あまりそう思わない。	3 そう思う。	4 大変そう思う。
0	2	20	34



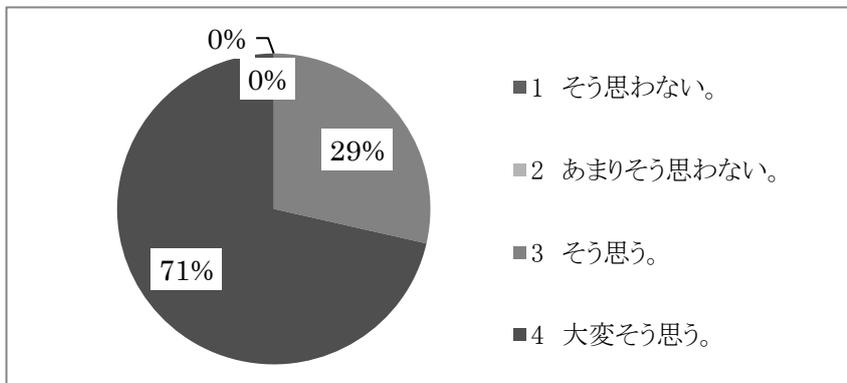
2 講習は学習意欲がわく内容であった。

1 そう思わない。	2 あまりそう思わない。	3 そう思う。	4 大変そう思う。
0	4	17	35



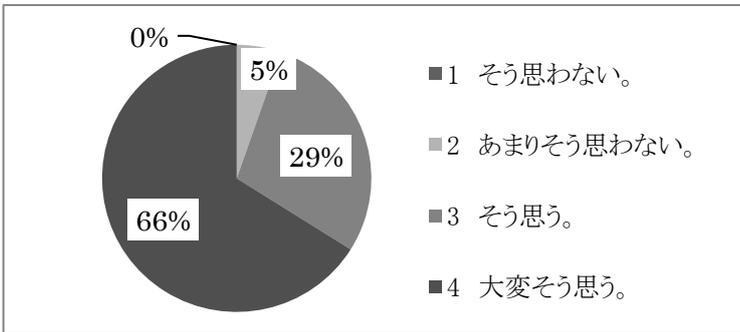
3 講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。

1 そう思わない。	2 あまりそう思わない。	3 そう思う。	4 大変そう思う。
0	0	16	40



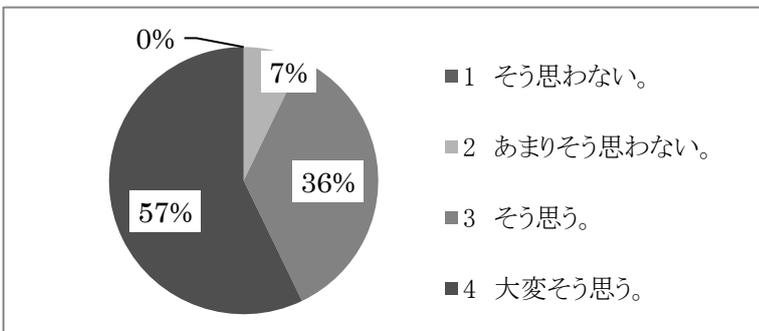
4 今後英語を指導する教員に必要かつ適切な内容であった。

1 そう思わない。	2 あまりそう思わない。	3 そう思う。	4 大変そう思う。
0	3	16	37



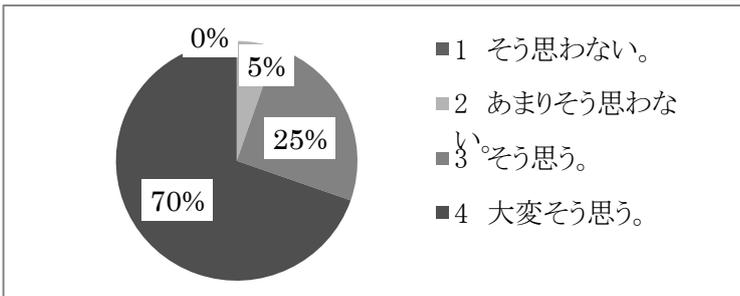
5 教材, 配布資料等のレベル・量は適切であった。

1 そう思わない。	2 あまりそう思わない。	3 そう思う。	4 大変そう思う。
0	4	20	32



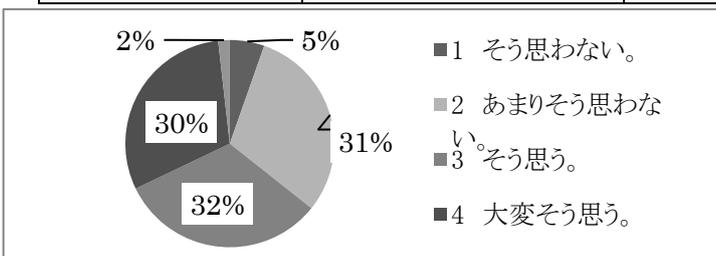
6 受講前より, 英語についての関心・意欲が高まり, 教員としての知識・技能の習得につながった。

1 そう思わない。	2 あまりそう思わない。	3 そう思う。	4 大変そう思う。
0	3	14	39



7 小学校英語を担当する自信がついた。

1 そう思わない。	2 あまりそう思わない。	3 そう思う。	4 大変そう思う。	無回答
3	17	18	17	1



参考資料3 講座運営についての受講者アンケート結果

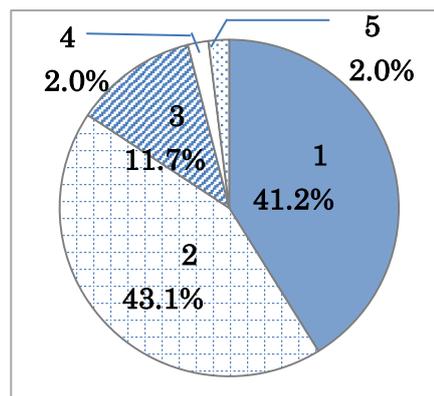
<b>中学校(英語)免許認定講習についてのアンケート 集計結果</b>	受講者数	65
	回答者数	51
	回収率	78.5%

( H28.12.18 実施 )

① 講座の運営について

授業日程、受講申請方法、大学からの連絡、講義室、出欠確認方法などは、適切だったと思われますか。

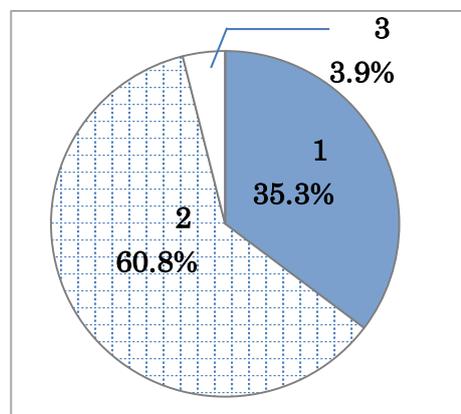
	回答数	順位
1. とても適切であった	21	2
2. ある程度適切であった	22	1
3. あまり適切でなかった	6	3
4. 適切でなかった	1	4
5. 無回答	1	4
計	51	-



② 講座全体について

本講座全体を通じての評価をお聞かせください。

	回答数	順位
1. とても満足した	18	2
2. ある程度満足した	31	1
3. あまり満足していない	2	3
4. 不満である	0	-
5. 無回答	0	-
計	51	-

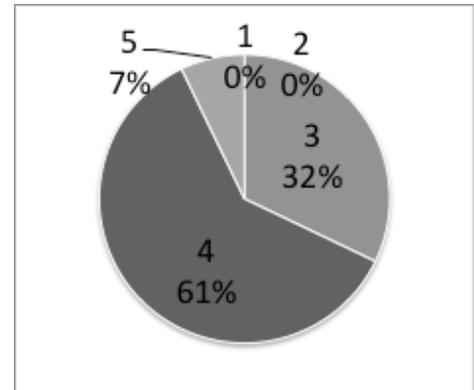


参考資料4 「スキルアップ講座A」受講者アンケート結果

「小学校英語スキルアップ講座A」に関する 受講者アンケート 集計結果	受講者数	31
	回答者数	28

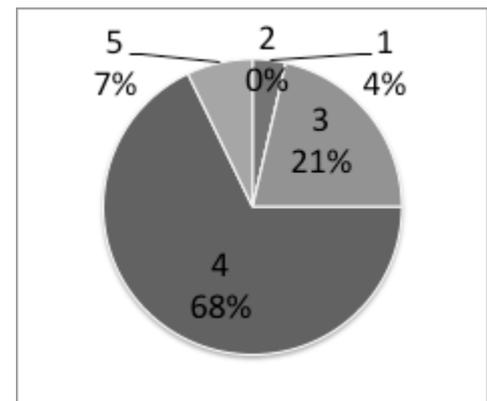
①講座のねらいや到達目標が明確であり，講座はそれらに即したものであった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	4
2. あまりそう思わない	0	4
3. <b>そう思う</b>	9	2
4. <b>大変そう思う</b>	17	1
5. その他	2	3
計	28	



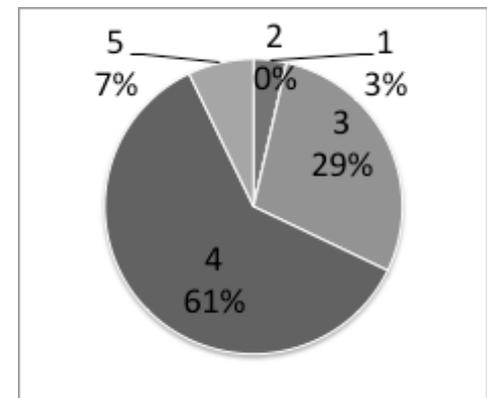
②講座は学習意欲がわく興味深い内容であった。

	回答数	順位
1. そう思わない	1	4
2. あまりそう思わない	0	5
3. <b>そう思う</b>	6	3
4. <b>大変そう思う</b>	19	1
5. その他	2	2
計	28	



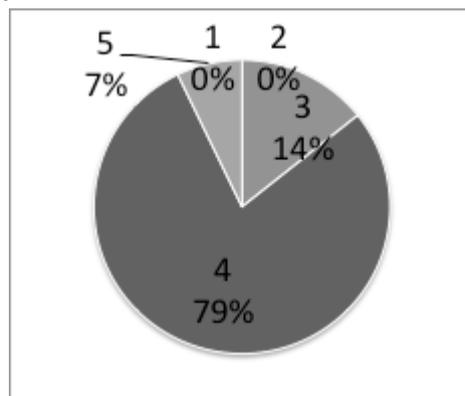
③講師の説明は分かりやすく，よく理解できた。

	回答数	順位
1. そう思わない	1	4
2. あまりそう思わない	0	5
3. <b>そう思う</b>	8	2
4. <b>大変そう思う</b>	17	1
5. その他	2	3
計	28	



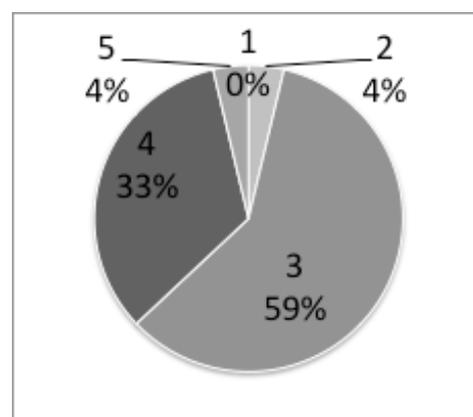
④今後小学校英語を指導する教員に必要なかつ適切な内容であった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	4
2. あまりそう思わない	0	4
<b>3. そう思う</b>	<b>4</b>	<b>2</b>
4. 大変そう思う	22	1
5. その他	2	3
計	28	



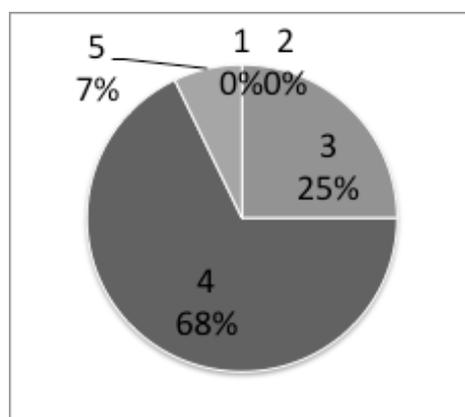
⑤教材，配布資料等のレベル・量は適切であった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	4
2. あまりそう思わない	1	3
<b>3. そう思う</b>	<b>16</b>	<b>1</b>
4. 大変そう思う	9	2
5. その他	1	3
計	28	



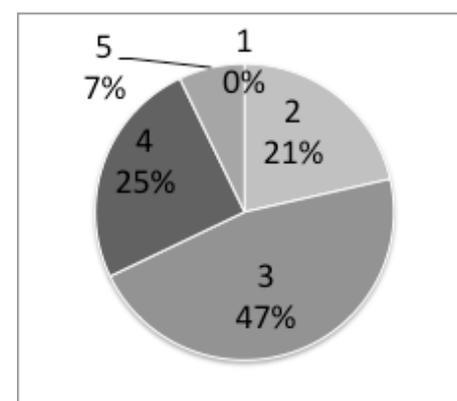
⑥小学校英語についての関心・意欲が高まり，知識・技能の習得につながった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	4
2. あまりそう思わない	0	4
<b>3. そう思う</b>	<b>7</b>	<b>2</b>
4. 大変そう思う	19	1
5. その他	2	3
計	28	



⑦小学校英語を担当する自信がついた。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	5
2. あまりそう思わない	6	3
<b>3. そう思う</b>	<b>13</b>	<b>1</b>
4. 大変そう思う	7	2
5. その他	2	4
計	28	



⑧この講座の内容、携帯、進め方等について。どのような感想を持たれましたか。良かった点、改善点など自由にお書きください。（一部抜粋）

**【授業日程について】**

- ・一日中は少しきついので集中力が持たない。  
└午前か午後だけの講座ならありがたい。

**【授業内容・運営について】**

- ・教科化に向け自信が持てなかったが、授業のゴールのヒントを得たように思う。  
└絵本の活用、評価等学校でも活かしていきたい。  
└周りの先生方と意見交換ができ有意義だった。  
└実践的な活動もあり、楽しく進んで講座に参加できた。  
└CLIL 実践例やワークショップ形式の内容もあり、楽しく学べた。  
└新指の最新情報から評価や指導の具体的な方法を知れて勉強になった。  
└理論的な面からのアプローチ、実践的な面からの具体的な指導法を両方学べた。  
└評価の仕方や絵本・チャンツの仕方など大変勉強になった。  
└難しい言葉もたくさん出てきて困惑したが、今後必要な教育のあり方を考えられた。  
└実際に授業や短時間学習に取り入れられる方法を提示して頂き活かしたいと思った。  
└色々な歌や本を紹介してもらえてよかった。  
└評価や指導要領など今の段階でわかっていることを教えていただけてよかった。  
└かなりレベルの高いところを目指しているような感覚に陥ってしまった。  
└今までの教材もやり方によって広がりがあることがわかりよかった。  
└それぞれの能力に応じ、スパイラルで徐々に力をつけ、自分がどの段階なのか知ると次の学習に役立つのではないかと思う。  
└パフォーマンス評価を早速やってみようと思う。  
└学習指導要領や答申に出てくる文言について具体例を数多く示して頂き、理解できた。  
└今後のカリキュラム作成中で様々なアイデアをいただいた。
- ・大変勉強になった。
- ・小学校教員の仕事はますます Hardになると感じた。  
└今の小学校でどのように進めていけばよいか悩みが増えた。  
└指導と評価は表裏一体だが、そのこのこだわりすぎると失敗する気がする。  
└評価は大変だなあとと思った。  
└自分の知識不足でわからないところが多かった。
- ・勉強が苦手な児童に対してのアプローチの仕方を英語ならではの方法を知りたい。
- ・具体的な活動はどの学年のどういったカリキュラムで進められてきた何時間目の授業なのか前情報があればよりわかりやすくどのように取り入れられるか考えやすい。

**【環境・設備について】**

- ・パワーポイントで示していただいた内容も紙面の資料としていただき良かった。  
└当日の資料があると研修を伝える際にありがたい。
- ・無料で開いていただけるのが本当にありがたい。

**【その他】**

- ・ICT の活用が厳しい自校だが学校内で相談していこうと思う。

⑨今後スキルアップ講座で取り扱ってほしい内容や時期等のご希望があればお書きください。

【希望の内容】

- ・授業ですぐに使えるスキル（ゲーム、絵本、歌など）を具体的に教えて欲しい。
- ・Can-do リストを使った評価について
- ・教科化に向けた授業実践について
- ・指導法や評価の仕方
- ・教職員間の研修の仕方
- ・All English ということで発問や指示等の実践例や例文をもっと知りたい。
- ・ALT との英語の授業の実践例、より効果的な方法があれば知りたい。
- ・今後も今回と同様、最新の情報とともに実践内容等を知りたい。
- ・モジュール学習について低学年中学年を来年度一斉にやった場合学年に応じてどのようにプラス、マイナスをすればいいか具体的に知りたい。

【希望の時期等】

- ・教材や情報が出た段階で開催して頂きたい。
- ・7月、12月、3月（学期末）は避けて頂きたい。夏休み、冬休みなど長期の休み・年度末以外
- ・土曜日は学校があるので、日曜日だけがよい。
- ・一年の反省をしながら振り返りのできるこの時期がよい、来年度の見通しも立つ。
- ・6年生は成績付けの時なので、今の時期は少しきつい。
- ・平日でセンターでの開催してもらえたら嬉しい。

【その他】

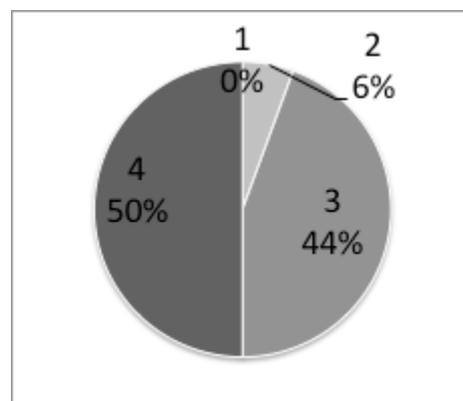
- ・またこのような機会があれば参加したい。
- ・有意義な研修をありがとうございました。

参考資料5 「スキルアップ講座B」受講者アンケート結果

<b>「小学校英語スキルアップ講座B」に関する 受講者アンケート 集計結果</b>	受講者数	18
	回答者数	18

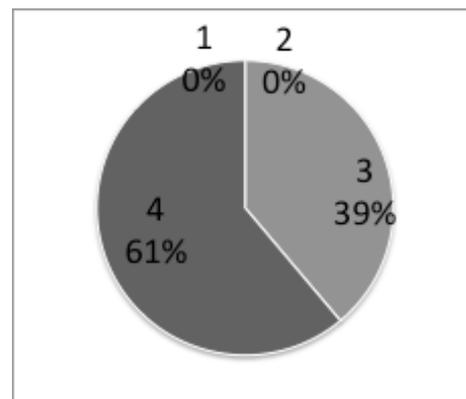
①講座のねらいや到達目標が明確であり、講座はそれらに即したものであった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	4
2. あまりそう思わない	1	3
3. そう思う	8	2
4. 大変そう思う	9	1
5. その他	0	4
計	18	



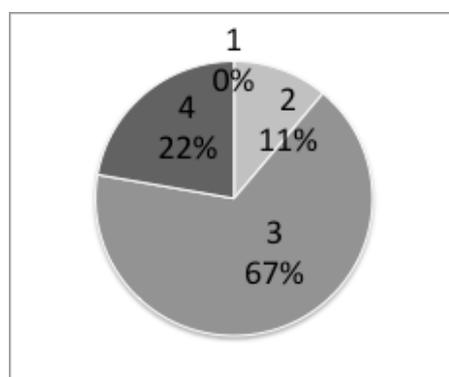
②講座は学習意欲がわく興味深い内容であった。

	回答数	順位
1. そう思わない	0	3
2. あまりそう思わない	0	3
3. そう思う	7	2
4. 大変そう思う	11	1
5. その他	0	3
計	18	



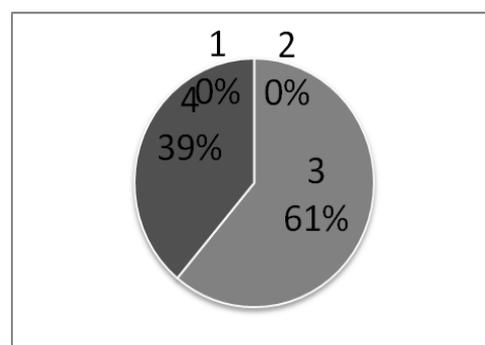
③講師の説明は分かりやすく、よく理解できた。

	回答数	順位
2. そう思わない	0	4
3. あまりそう思わない	2	3
4. そう思う	12	1
5. 大変そう思う	4	2
6. その他	0	4
計	18	



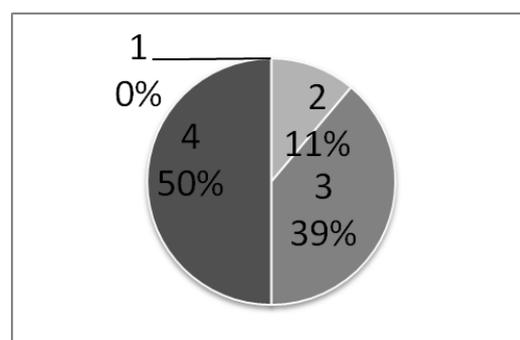
④今後小学校英語を指導する教員に必要なかつ適切な内容であった。

	回答数	順位
2. そう思わない	0	3
3. あまりそう思わない	0	3
4. そう思う	11	1
5. 大変そう思う	7	2
6. その他	0	3
計	18	



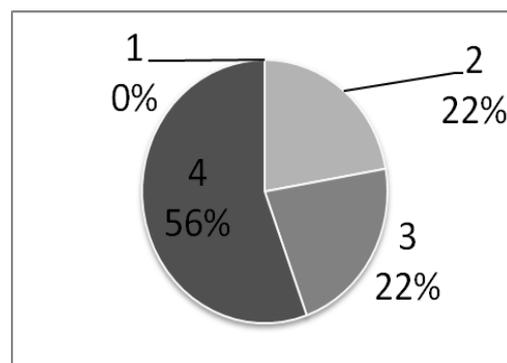
⑤教材、配布資料等のレベル・量は適切であった。

	回答数	順位
3. そう思わない	0	4
4. あまりそう思わない	2	3
5. そう思う	7	2
6. 大変そう思う	9	1
7. その他	0	4
計	18	



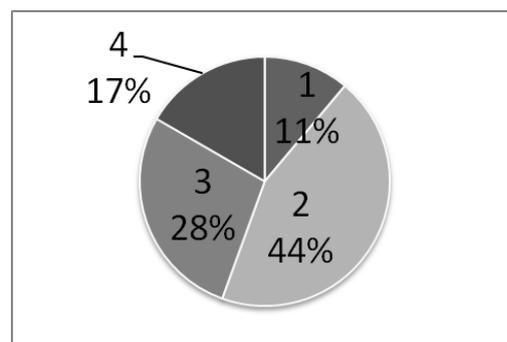
⑥小学校英語についての関心・意欲が高まり，知識・技能の習得につながった。

	回答数	順位
3. そう思わない	0	3
4. あまりそう思わない	4	2
5. <b>そう思う</b>	4	2
6. 大変そう思う	10	1
7. その他	0	3
計	18	



⑦小学校英語を担当する自信がついた。

	回答数	順位
4. そう思わない	2	4
5. あまりそう思わない	8	1
6. <b>そう思う</b>	5	2
7. 大変そう思う	3	3
8. その他	0	5
計	18	



⑧この講座の内容，携帯，進め方等について。どのような感想を持たれましたか。良かった点，改善点など自由にお書きください。（一部抜粋）

【授業内容について】

- ・意味のあるところに意欲，習得につながることがわかった。
  - └ 29年度に対して不安だったが少し気持ちが楽になった。
  - └ 実際の教材から観点や要点を知ることができた。
  - └ 理論や具体的な指導法，授業の作り方まで内容が充実していた。
  - └ 西本先生の理論の話等，意味を持たせるリアリティを感じさせること，共感できた。
  - └ アンドリュー先生の実践も使えそうなものばかりだった。もっとリスニングも頑張りたい。
  - └ モジュール学習は何をすればよいか発達段階によって内容を変えるべきかなど色々不安な思いだったが最後にメールアドレスを教えてくださいありがとうございます。
  - └ Hi, friends2 に即して研修をしてくださり現場で使えると思った。
  - └ 中学校の授業の様子は6年生でも TD や英語のリレーノートができるクラスにしたい。
  - └ 教材研究としていかに身近な話題や人物にコネクして input させるかが大事。
- ・狙いが明示されていない（ざっくりしている）ように感じる。
  - └ 理論，実践ともに興味深いがこれで大丈夫という気持ちにはなれない。

⑨今後スキルアップ講座で取り扱ってもらいたい内容や時期等のご希望があればお書きください。

- ・実践内容を具体的にやってみたい。 ・モジュール指導での実践内容。
- ・カリキュラムの開発の仕方，具体的カリキュラム，指導案が欲しい。
- ・教材，カリキュラム，予算（絵本は校内に3冊）とにかくどのように進めたらよいのか全くわからないので具体的に何から始めればよいのか教材の扱い方を知りたい。
- ・ALT とともに作る小学校英語のあり方。
- ・英語のレベル別講座のようなものがあれば嬉しい。

参考資料6 「中等英語科教育法」シラバス

授業科目名等	中等英語科教育法 単位数：2単位 担当教員名：西本 有逸，泉 恵美子																																
授業の概要	中等英語科教育における理念や目的について考え，小中連携についても考察する。また，実際に中学校英語の教科書を用いて語彙や音声，文法，4技能・技能統合型の指導のあり方を考える。また，カリキュラム／シラバスや教材開発を行い，様々な評価法についても考察する。最終的に実際に学習指導案を作成し，模擬授業を行い，互いに省察を行うことで，理論と実践の往還を図る。講義においては，小学校英語の指導にも役立つような指導法，教材開発，評価などを考慮するとともに，受講者ができるだけ英語を用いて授業できるように，演習や模擬授業を通して実際の授業場面を設定し，教室英語などを活用できるように工夫する。																																
授業の到達目標	・中等英語科教育の理念と目的を理解できる。・4技能（聞く・読む・話す・書く）および技能統合型の指導と評価について理解できる。・カリキュラム／シラバスを構想し，教材開発ができる。・学習指導案（細案）を作成できる。																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>中学校英語の理念と目的</td></tr> <tr><td>2</td><td>望ましい小中連携のあり方，文字・文法の導入</td></tr> <tr><td>3</td><td>第二言語習得論／教授法</td></tr> <tr><td>4</td><td>語彙／音声指導</td></tr> <tr><td>5</td><td>文法指導</td></tr> <tr><td>6</td><td>リスニング指導</td></tr> <tr><td>7</td><td>リーディング指導</td></tr> <tr><td>8</td><td>スピーキング指導</td></tr> <tr><td>9</td><td>ライティング指導</td></tr> <tr><td>10</td><td>4技能統合型の指導</td></tr> <tr><td>11</td><td>カリキュラム／シラバス／教材開発</td></tr> <tr><td>12</td><td>評価／学習指導案</td></tr> <tr><td>13</td><td>模擬授業(1)</td></tr> <tr><td>14</td><td>模擬授業(2)</td></tr> <tr><td>15</td><td>振り返り／まとめ</td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	中学校英語の理念と目的	2	望ましい小中連携のあり方，文字・文法の導入	3	第二言語習得論／教授法	4	語彙／音声指導	5	文法指導	6	リスニング指導	7	リーディング指導	8	スピーキング指導	9	ライティング指導	10	4技能統合型の指導	11	カリキュラム／シラバス／教材開発	12	評価／学習指導案	13	模擬授業(1)	14	模擬授業(2)	15	振り返り／まとめ
回	内容																																
1	中学校英語の理念と目的																																
2	望ましい小中連携のあり方，文字・文法の導入																																
3	第二言語習得論／教授法																																
4	語彙／音声指導																																
5	文法指導																																
6	リスニング指導																																
7	リーディング指導																																
8	スピーキング指導																																
9	ライティング指導																																
10	4技能統合型の指導																																
11	カリキュラム／シラバス／教材開発																																
12	評価／学習指導案																																
13	模擬授業(1)																																
14	模擬授業(2)																																
15	振り返り／まとめ																																
テキスト・参考書	テキスト：吉田晴世・加賀田哲也・泉恵美子編『英語科・外国語活動の理論と実践』あいり出版																																
自学自習についての情報	予習としてテキストを読み込み，復習として授業で紹介するスキル・トレーニングに励んでいただきたい。																																
授業の形式	講義・演習																																
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	記述式試験を行う（配布資料やノートの持ち込み不可）。例「この講習を受けて考えたことをまとめ，習得した知識をどのように活用したいと思いますか，具体的な授業実践を構想しなさい。」 授業時間数の5分の4以上の出席がなければ，成績評価の対象としません。																																
その他	特記事項なし																																

参考資料7 「コミュニケーション英語Ⅰ」シラバス

授業科目名等	英語コミュニケーションⅠ 単位数：1単位 担当教員名：奥村 真紀 担当形態：単独	
教員免許状取得のための必修科目		
科目：教科に関する科目（中学校英語及び高等学校英語）		
施行規則に定める科目区分：英語コミュニケーション（中学校英語及び高等学校英語）		
授業の概要	本授業では、英語の四技能をバランスよく伸ばし、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。クラスではBBCのドキュメンタリーを題材としたDVD付きテキストを使い、まずは実際の生きた英語を聞いて、情報を的確に得る力を身につける。比較的平易な英語の番組を聞きながら、適宜関連するトピックについてのリーディング教材を使って、文法的解説なども加えながら読む力も伸ばし、その題材について互いにディスカッションなどを行い、発信する力もつけることを目指す。	
授業の到達目標	テキストは巻末に自習用のDVDがついているので、それを繰り返し聞くことで、英語に慣れ、ナチュラルスピードで話される英語の大意をつかむことができるようになることを目指す。また、比較的短い文章を読み、早く的確に情報を読み取る力を付ける。授業の題材について、発音練習や英語での意見交換を通して、総合的な英語コミュニケーション力を高めることを目標とする。授業で扱う様々な題材について、その背景となる社会や文化についての理解を深める。	
授業計画	回	内容
	1	イントロダクション：英語の勉強の仕方、聞き取りのポイント、文法力の強化
	2	Chapter 1 Hamburger History
	3	Chapter 2 Rings and Things
	4	Chapter 3 Bringing up Baby
	5	Chapter 4 The Bhutanese
	6	Chapter 5 Into the Wilderness
	7	Chapter 6 Jade
	8	授業のまとめと試験
テキスト・参考書	Akira Morita 他 Welcome to BBC on DVD（成美堂） ISBN: 9784791910854	
自学自習についての情報	テキストには自学自習用のDVDが付いているので、繰り返し聞いて英語に耳を慣らすこと。テキストの扱う題材、リーディング教材について、問題意識を持ち、自分の意見を発信するためのリサーチを含めた準備をすること。	
授業の形式	講義と演習	
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	試験	
その他	授業の4/5の出席を必須とする。	

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、京都教育大学が実施した平成28年度「小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。